

グラスフェッドのすすめ

(有)シェパード 獣医師 松本大策

1 - 2: 放牧する際に注意すること

放牧する際の注意点としては、まず放牧になれない牛さんを放牧した場合、消耗が激しく体調を崩しやすいので、放牧馴致といって、少しずつ慣らしてあげる必要があるということです。可能でしたら、放牧による自家繁殖の子牛を導入して肥育にはいるか、放牧で繁殖をなさっている農家さんの子牛を導入するかして、放牧になれている子牛でグラスフェッドをするのがベストです。そうでない場合は、導入舎だけでも作っておいて、徐々に放牧に慣れさせるなどの手順を踏んだ方が、牛さんの負担が少なく、その後の肥育が容易になります。経営が安定してきたら、放牧による繁殖も取り入れると、子牛生産費を下げられる、子牛を母牛と一緒に放牧出来るので馴致しやすい、などの利点が生れます。しかしながら、最初から繁殖・肥育一貫で行こうとするのであれば、よほど資金に余裕がないと資金回転率が悪いので、途中で資金ショートを起こす可能性もあります。

ピロプラズマに注意！

また、放牧病といえば、真っ先に思い浮かぶのが「ピロプラズマ病」です。これは、オウシマダニやフタトゲチマダニというダニの仲間が媒介する原虫が、ダニの吸血の際に牛さんの血液中に進入し、赤血球に寄生する病気で、ピロプラズマに寄生された牛さんは、貧血や肝臓障害を起こして弱ってしまったり、繁殖母牛の場合は、流産してしまったりすることもあります。この病気の治療薬は、以前はプリマキンとかガナゼックというものがありました(それぞれに有効なピロプラズマの種類は違います)。しかし、どちらも現在は製造中止になっています。ピロプラズマの被害に遭うのは、初めて放牧された牛さんが主体です。というのも、2年目以降になるとピロプラズマに対する免疫が出来るからです。それで、入牧初体験の若いお母さんで流産などが起こりやすいのです。放牧型の肥育では、まず放牧初体験の牛さんを用いるので、ピロプラズマによる貧血や肝臓障害などに注意しなければなりません。

ピロプラズマは先ほどもお話ししましたように、ダニによって媒介されます。ですから、入牧時から定期的にバイチコールなどのダニの駆除剤を牛さんに投与することをおすすめします。バイチコールでしたらポジティブリストによる出荷制限も2日間と短いですがからね。こうやって駆除を毎年繰り返していくことで、牧野のダニの数を減らしていくことが出来ます。ここでは、文字数の都合で詳細をご紹介できませんが、そういった事例



は沖縄県の家畜保健衛生所などが「ダニ撲滅達成」報告としてまとめていらっしゃると思います。新規放牧をなさる方は、一度地元の家畜保健衛生所を通じて情報をいただくと良いと思います。「なんか県の機関っていかめしそう」って思ってらっしゃる方がいっぱいいると思いますが、決してそんなことはありませんよ。どこでも親切に対応してくれます。ここで書くことではないかもしれないけど、「公務員はラクでいいなあ」なんて思ってるあなた、**大間違い**です。僕の友人達もそうですが、ものすごくたくさんの仕事を抱えて、実労働時間もめっちゃ長いのです。土日休みなんてとんでもない、しょっちゅう鳥インフルだ、BSE検査だ、って駆り出されてクタクタになっています。それに加えてこのところの給与カット。みなさん、公務員の給与がカットされるということは、「公的機関のサービスを低下させます」という宣言ですよ。それに、民間企業の給与算定ベースだって公務員給与がベースなんだから、いずれはみなさんに被害が及びます。「民間だ、公務員だ」って対立してないで、みんなで幸せな国を作らなきゃ！

あ、大幅な脱線をしてしまいましたね。ピロプラズマのお話をしていたのでした。さて、放牧の際は、ピロプラズマだけでなく注意すべき危険があります。

有毒植物にも注意！

牧野はたまに巡回して植生にも注意しておかなければなりません。牛さんが食べると害を受けたり、ひどいときは死んでしまったりする様な毒草、つまり有毒植物が自生していたり、季節によって生えてくる場合などがあるからです。注意しておいた方がよいものをいくつか挙げておきますが、地方によって植生が異なりますから、その地域のお年寄りによくうかがって毒草を調べておいた方がよいでしょう。お年寄りの知恵は本当に役に立つものです。大事にしましょうね。

1, わらび

牛さんの有毒植物中毒というと、筆頭はなんといっても「わらび」でしょう。わらび(写真)は、我が国ではポピュラーに見られる山菜です。人間はおいしくいただきますが、牛さんが食べると膀胱に腫瘍が出来たり、骨髄がうまく働かなくなって貧血を起したりする場合があります。人が食べるからといって牛さんにも大丈夫だと思うのは間違いなんですね。放牧期間が長い乳牛や繁殖牛の場合は、ワラビを食べなくなるので被害が出にくいといわれますが、放牧肥育の場合は、経験年数を積む時間がないので、より注意を払ってあげる必要があります



写真: わらび



2, 馬酔木(アセビ)

馬酔木はツツジの仲間で、牛さんがまちがって食べると、数時間で嘔吐や涎を垂らし、フラフラと酔っぱらったような歩き方になります。重症になると起立不能や疝痛(腹痛)や不整脈、全身麻痺などに陥る場合もありますが致死率は高くありません。



写真:馬酔木(動衛研 HP)

3, キョウチクトウ



写真:キョウチクトウ
(動衛研 HP)

アフリカで毒矢の毒として使われていたのがキョウチクトウの仲間です。ピンクや白のかれんな花を咲かせるため、街路樹や庭木として植えられていることが多いのですが、僕が子供の頃遊んだ熊本の山には時々生えていました(もともと外来植物なのでどういった経緯で生えていたのか不明ですが、牛の死亡例の報告もあるのでご注意下さい。心臓毒を含んでいて、ゾウでも葉っぱ数枚で死ぬと言われてい

4, スズラン

スズランは、大変愛らしい花を咲かせる植物として有名ですが、実はキョウチクトウと同じ毒物を含んでいます。症状は、最初は涎を垂らしたり嘔吐、下痢などを起こしたりしますが、次第に循環器障害を起こし、最後は痙攣して死んでしまいます。

放牧になれた家畜では食べないと思いますが、グラスフェッドの場合は放牧に長いこと慣らしている暇がないので注意してあげましょう。

5, ドクゼリ

ドクゼリは、食用のセリに似ていますが、神経毒を含んでいて歩行困難、起立不能などを起こし死亡することも多い危険な毒草です。牧野でも水場や川の岸边などに生えていますから、ご自分の牧野にそういう場所がある方はご注意下さい。

6, ソテツ

実は、僕の修士論文は山羊のソテツ中毒でした。南の島ではたくさんのソテツ(写真:ソテツ、ソテツ2)が自生しています。ソテツは葉にも実にもサイカシンやホルマリンなどの毒素を含んでいて、肝臓障害や脳神経に障害を起こして腰萎えになったり

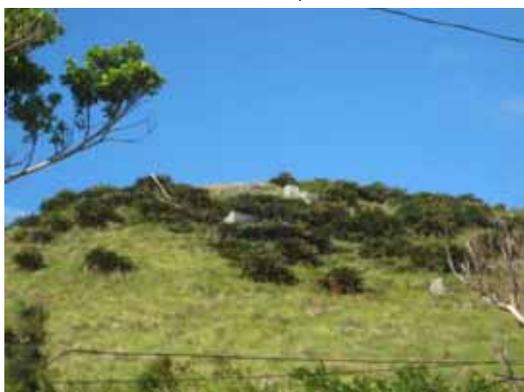


写真:ソテツ

します。普段は牛さんもソテツを食べないのですが、牧野の草が減ってくると他に食べるものを求めてソテツを食べます。人間もソテツの毒性を知っていますから、昔からソテツの実を食べるときは水でさらして毒抜きをして食べていたのです。毒素が水溶性であ



ることまで知っているとは、ご先祖様の知恵もたいしたものです。

7, モロヘイヤ

意外なことに、牛さんはモロヘイヤの種子でも中毒を起こします。その毒性分はキョウチクトウと同じもので、日本でも長崎で死亡例が報告されています。



牧野には自生していないと思いますが、畑の隅に食用で植えてあるものを刈り取って与えたりする場合があります。と思い念のために書いておきました。症状は食欲不振、下痢、起立不能、体温低下などで、牛さんは豚などの他の動物よりも感受性(毒の影響を受ける性質)が高いそうです。

8, 硝酸塩中毒の牧草

これは特定の植物ではないのですが、堆肥の過給や窒素肥料の過給などで、様々な植物が硝酸塩を多量に含有するようになります。硝酸塩に汚染された植物は、一見青々として草丈も高く、素人目には大変優良な作物に見えますが、実際は牛さんが食べると急性から慢性まで様々な毒性を発揮します。急性の場合、死に至る確率が高く注意が必要ですが、慢性中毒でも食欲不振、受胎率低下から肉色の悪化など様々な問題を起こしますから、ここでも念のために注意喚起として取り上げておきました。硝酸塩中毒の場合、血液が独特の暗赤色になるので、疑わしい牛さんがいたらすぐに獣医さんに調べてもらいましょう。

金属異物にも気をつけて

牛さんはなぜか金属が好きです。世の女性が好む様な貴金属じゃなく、針金だのクギだのを好んで食べてしまいます。これらを総称して金属異物といいますが、飲み込んでしまった針金やクギは胃袋に刺さり「創傷性胃炎」という病気を引き起こすのです。一番刺さりやすいのが、第一胃の前方にある第二胃です。進行すると、第二胃を突き破った金属が横隔膜や胸腔にまで刺さり時には心臓に達することもあります。僕自身、心臓を後ろから前に番線(太い針金)が貫通した牛さんの診療に当たったことがあります。もちろん助けられなくて、死後解剖で発見されたのですが。

牛さんが金属を好んで食べる理由として、「鉄分の要求量が多いから」といわれています。牧野を仕切る牧柵の番線やいろんな作業で使った針金、クギなどがはずれて落ちていないか、牧柵が錆びてちぎれていないか、など日々注意を払ってあげましょう。

また、放牧でもちょっとした屋根の下に補助飼槽をつけておくと、草が足りないときなどに乾草や飼料を補ってあげられます。そういう場所に鉍塩E100などのミネラルを含



んだ固形鉍塩をおいておくと、その土地で不足するミネラルを補うので安心です。病気の予防にもなりますし、金属異物を食べる確率も減らすことができます。

また、万が一釘や針金を飲み込んでも、それが胃壁などに刺さらぬようにマグネット(パーネットなど)を飲ませておくのも有効です。



写真:パーネット